

助産雑誌 Back Number

★バックナンバーのお取り扱いについて

- ① 2021年9月号以降の雑誌は、医学書院受注センター(TEL: 03-3817-5666)にて承ります。
- ② それ以前の号についてのご注文や在庫のご照会などは、下記をお願いいたします。
株式会社東亜ブック 〒178-0061 東京都練馬区大泉学園町 5-27-11
TEL: 03-5947-4781 FAX: 03-3923-4539



2023年4号(7-8月号)

特集

産む人を中心にした帝王切開

帝王切開を「出産」と捉え、産む人・生まれる人を中心にした実践を行うためには、助産師は何を学び、何をすればよいのでしょうか？産婦人科・麻酔科・形成外科・リハビリテーションの専門家に聞きました。「産む人」代表の細田恭子さん企画です。



2023年3号(5-6月号)

特集

妊娠中の体重管理と栄養

2021年に「妊娠中の体重増加量の目安」が改定されました。低出生体重児の割合が高く、「やせ」の女性が多い日本。妊娠・出産をきっかけに、女性が自身の心身の健康に向き合えるような体重管理のあり方を、さまざまな角度から考えます。



2023年2号(3-4月号)

特集

チームで取り組む周産期メンタルヘルス

信州大学医学部「周産期のこころの医学講座」の全面協力の下、附属病院産科、NICU・GCU、精神科とPSWが毎週行うカンファレンスを誌上に再現。さらに助産院との勉強会を加え、スタッフのケアも含めた周産期メンタルヘルスの実践を学びます。



2023年1号(1-2月号)

特集

ライフワークとして考える助産師のキャリア

病院・地域・行政という従来の枠組みにとらわれないキャリアや、自身の「やりたい！」を課題解決に結びつけてきた助産師の体験談を掲載しています。超少子化の今だからこそ、社会のあらゆる場面で助産師が求められていることが分かります。



2022年6号(11-12月号)

特集

ベテラン助産師に聞く退院までの母乳育児支援のコツ

新人・中堅母乳育児支援でぶつかった悩みについて、助産師歴37年・IBCLC歴21年の先輩助産師が答えます。お母さんとのコミュニケーションや、母乳量を調節するワザについて、考え方から「ちょっとしたコツ」まで、一緒に学んでいきましょう。



2022年5号(9-10月号)

特集

共働き家庭のための出産準備アップデート

乳幼児のいる家庭でも共働きが半数を超えました。働き方も価値観も変化しつつある時代に、「共働き家庭を対象とした出産準備・育児教室に追加した内容」をまとめました。特別企画として、産後の生活の計画をつくる「アフターバースプラン」も紹介しています。

2022年 特集

4号(7-8月号) 切れ目ない支援を実現する産前・産後の訪問看護

3号(5-6月号) オンラインクラス・オンライン相談

2号(3-4月号) 教科書に載っていない「進まない分娩」の対応

1号(1-2月号) COVID-19 流行下の助産ケア

2022年 特集

12月号 組織で育む助産実践能力 国立成育医療研究センターの助産師能力開発プログラム

11月号 母親と助産師の経験から授乳支援を考える

10月号 母子と家族・社会をつなぎ止める、オンラインの活用方法